

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 一般財団法人 箱根町観光協会

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、
 2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：11,303人（2020年度）、将来：2030年度10,000人を割る、2045年度7,200人の確保を目指す
 ○観光収入 現状：2,950億円（2018年度）→目標：3,000億円（2030年）、
 ○温室効果ガス排出量削減：目標：76,000ト（2013年度比46%）（2030年度） 現状：108,122ト（2018年度）

②具体的な取組
 ●目指すべきゴールの共有（箱根DMO戦略推進委員会）
 ●ゴミの削減（各事業者）
 ●持続可能な自然資源のマネジメント
 ●モビリティのEV化

①ありたい未来
 ●訪れる人に気づきを与える場所 SDGs Show Room
 → 箱根町は年間2,000万人の観光客が訪れる日本有数の観光地である。
 箱根を訪れる数多くの観光客が環境(SDGs)における最先端の取組みに触れることで、
 帰宅後自らの生活を振り返るきっかけとなるような観光地となる。
 環境先進観光地箱根というブランドを確立することで、欧米豪を初めSDGsに関心の高い観光客の訪問先の選択肢となる。
 教育旅行や各種視察の訪問先の一つとなる。
 また財政赤字の主要因である多数の観光客が出すごみ処理費用をSDGsの循環の中へ取り組む(受益者負担とする)ことで、
 赤字財政の解消を目指し、財政面でも持続可能な観光地となる。
 従来の豊富な温泉・人気の宿泊施設・首都圏からの距離という従来のブランドイメージに加え
 → 「SDGs Show Room」という新たなブランドを構築する。
 それにより人口減及び首都圏近郊温泉地との競合に打ち勝ち観光収入3,000億円を達成させる。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	地域の取組	ゴミの削減量	16,000			トン
	地域の取組	分別可能なゴミ箱の設置	0			個
	地域（事業者）の取組	業務用生ゴミ処分処理機の設置	-			
	地域（事業者）の取組	パーク&ライドの実施				
	地域の取組	EVステーションの設置	37			拠点
	地域の取組	フードロス削減への取組	-			箇所
	地域の取組	箱根の間伐材を利用した割り箸	-			
経済	財政の充実	SDGs関連ツアー	0			
	地域の取組	ドネーション付き飲料の販売	-			
社会	行動が変わる	事業者向けSDGs説明会	0			回
	行動が変わる	SDGs関連でのメディア露出数	0			回
	サステナブルツーリズム	ガイド育成	1			回
	サステナブルツーリズム	子供向け体験コンテンツ拡充	0			個
	サステナブルツーリズム	関連企業との連携による新規事	0			社

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	地域の取組	温室効果ガス排出量削減	108,122		2030年度	76,000	
	地域の取組	ゴミの削減量	16,000				トン
	地域の取組	ロードプライシング	0				
経済	財政の充実	財政赤字の縮小					億円
	財政の充実	観光収入目標の達成	2,950億円		2030年度	3,000	億円
	地域の取組	ロードプライシング					
社会	行動が変わる	個人向けSDGs説明会					
	行動が変わる	教育旅行受入本数	0				

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

SDGs Show Room の実現のためには、各地で様々な取組をしていることが必要であるとともに、KPIに基づいた目標設定・進捗管理が必要
 ゴミの削減には事業者によって特性が異なるので、その特性にあった取組を実施することで参加施設を増やしていく
 財政赤字の解消には割合の多い観光者から受益者負担として支払うスキームを整えていく
 ※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください